

冬に流行る感染症 (11月～3月)

両野こども園
令和2年度
看護師

寒くなると感染症が流行するのはなぜ？

・冬はウイルスが強くなる

ウイルスは低温・低湿度を好み、感染力を強めます。冬場にウイルス感染が多くなるのは、外気が寒く乾燥するためです。

・冬は人の免疫力が低下する

冬場は積極的な水分摂取がなく、体内が乾燥し喉や気管支の粘膜がカラカラになり傷みやすくなります。そこで、ウイルスが侵入して傷んでいる粘膜に付着しやすく、冬場の温度が低いことで体温も下がり免疫力が低下し、感染症を起こしやすくなります。

・冬は飛沫感染の範囲が広がる

外気の乾燥（湿度が低いこと）により咳やくしゃみの飛沫が小さくなり、飛沫に乗ったウイルスがより遠くまで飛ぶようになります。

* 予防 * 保温 * 保湿 * 栄養 * 休養 * 安心 * 安静 * 早めの受診

RSウイルス

感染経路：飛沫感染・接触感染

症状：2～5日の潜伏期後、39℃程度の発熱、鼻水、咳などの症状が現れます。通常1～2週間で軽快しますが、呼吸困難等の重篤な症状が出た場合には入院が必要です。

(乳幼児の肺炎の約50%、気管支炎の50～90%を占めると言われています)

対応：機嫌がよく、集団生活に差し支えなければ登園できます。登園の際、「登園届」が必要です。



溶連菌感染症

感染経路：飛沫感染

症状：2～10歳前後の子どもが感染することが多く、2～4日間の潜伏期において、39.0度前後の発熱、咳、のどなどの痛みや倦怠感が出現する。いちご状舌が特徴で、赤い細かい発疹が多数手首や足首などから出始める。

対応：熱がなく、抗生物質を飲み始めて24時間経過していたら集団生活に差し支えありません。登園の際「登園届」が必要です。





インフルエンザ

感染経路：飛沫感染・接触感染

症状：比較的急速に悪寒・発熱・頭痛・全身倦怠感・筋肉痛・喉頭痛・鼻汁
・咳・痰など出現する。

対応：発熱の症状が出現した翌日より5日間経過し、かつ解熱したあと4日目より登園可能となります。
登園の際「登園届（インフルエンザ用）」が必要です。

インフルエンザを疑う場合、
発熱後8時間以上 48時間以内の
受診・治療をお勧めします。



ノロウイルス

感染経路：飛沫感染・接触感染

症状：突発的に吐き気や嘔吐、下痢・腹痛などがおこる

対応：登園可能と医師より診断されれば集団生活差し支えありません。
登園の際「登園届（ノロ・ロタ用）」が必要です。

ロタウイルス

感染経路：飛沫感染・接触感染

症状：37,0度前後の微熱があり突発的に吐き気や嘔吐が出現し、酸っぱい臭いのある米のとぎ汁様白色下痢便が特徴です。下痢は、1週間位続くこともあります。

対応：登園可能と医師より診断されれば集団生活差し支えありません。
登園の際「登園届（ノロ・ロタ用）」が必要です。

嘔吐下痢時

水分補給をさせる時は、温かいものを少量ずつ数回に分けて与えて下さい。一気に飲むと胃が刺激されて再び嘔吐してしまいます。

また、あまりにも嘔吐や下痢が続きグッタリしている、水分が摂れない場合は、すぐに医療機関へ受診しましょう。



コロナ禍 引き続き「手洗い・うがい」をまめに行いましょう!!

*** 新型コロナ感染動向や地域の情報を正確に取得し対策を**

*** 「登園届」「お薬依頼書」「感染症情報」**

両野こども園ホームページ「ほけん」をご覧ください、参考にしてください。各用紙も印刷できます。ご利用下さい♪